

## ◎自由発表（第1会場）

### 【演題等】「小中学校向けクラウド型教育支援システム「結-EN®（YUIEN）」を活用した生徒指導支援」

【講演・発表者】YUI Connection株式会社 代表取締役社長 高野 修一

#### ・発表概要

設立と同時に、全国の小中学校向けに「結-EN」の提供を開始し、2024年6月現在、60以上の自治体でトライアル導入してきた。

結-ENは、児童生徒一人一人の学校での様子を見える化し、一人一人の児童生徒に適切な教育プランを教員に提供するサービスである。結-ENの核となるIN-Child Recordの構成や具体的な情報連携・行動連携の事例、利用者の声、利用教員の結果等について発表された。



#### ・発表要旨

##### 1 結-ENとは

児童生徒一人一人の総合的なアセスメントを通して、個別最適な教育支援プランを提示できるソフトである。ICR：IN-Child Recordと呼ばれる82項目の質問票から構成されているものを使い、学校生活の中での児童生徒の様子を身体面・情緒面・生活面・学習面からチェックすることで、どんなところで困っているかを把握することができる。

##### 2 結-ENの活用方法について

###### (1) 校内委員会やケース会議での運営資料として

担任や支援に関わる他の教員が、根拠に基づいた共通の指標を用いて会議で伝えることでロジカルな説明が可能になる。プレゼンを聞く側も同じ指標や図をもとに確認することができるため、児童生徒の様子を相対的に比較しやすく、支援に関する役割分担や意思決定も行いやすくなる。チーム学校として共通の視点で考え、支援を行う体制づくりができる。

###### (2) 別室に通う児童生徒の支援のための情報共有ツールとして

担任と別室職員が児童生徒の客観的な評価データを共有することで、行動連携による支援を速やかかつ的確に行うことができる。情報共有と連携により、不登校別室に通う児童生徒の支援が強化され、保護者の信頼も得られる。

###### (3) 保護者面談の質を高めるための事前準備として

評価結果を参考にしながら説明することで、児童生徒の得意・不得意をロジカルに説明できる上に、必要と考える支援についても具体的に伝えることができる。また、リーダーチャートで変化が見えることで、児童生徒の成長した部分を具体的に伝えることや、結-EN内に記録することで、児童生徒一人一人の様子を踏まえた教育的ニーズを、保護者に具体的に伝えることも可能になる。

#### ・質疑応答の概要

Q：色々なソフトがある中で、子どもたちにとって何がいいのか。企業として、利益を上げていかなければならないけども、どう考えているのか。

- A : 先生方の熱い想いに少しでも貢献したいという思いで取り組んでいる。利益追求型というものではないというところだけ、この場で紹介したい。
- Q : 保護者にチャートを提示できるのは非常に有効であると聞いている。しかし、82項目を入力するのは大変なところもある。項目を絞って全員が使えるものはないのか。
- A : 今のところ考えていない。初期入力は大変だが、二回目からは前回入力したものを使うので、負担を軽減できると考えている。